

## 4 新規事業

### ● 大阪PCB廃棄物処理施設が完成



大阪PCB廃棄物処理施設の全景  
Osaka PCB Waste Disposal Facility

国と日本環境安全事業(株)は、国内で保管されてきたPCB(ポリ塩化ビフェニル)を処理するために5か所のPCB廃棄物処理施設を計画し、2004年12月から処理を開始している。

当社は、その一つである大阪PCB廃棄物処理施設の建設において、総合エンジニアリングの三井造船(株)、PCB無害化処理の(株)かんでんエンジニアリング、及び機器のPCB除去(真空加熱分離)のゼロ・ジャパン(株)から成るジョイントベンチャーに、機器解体及び洗浄によるPCB除去技術保有者として参加し、2006年8月に施設を完成させた。

2015年までに国内すべてのPCBの処理完了を目指し運転されている。

関係論文:東芝レビュー. 62, 2, 2007, p.46-49.

### ● 低速複合機 e-STUDIO165/205へ消せるトナー e-blue™搭載



e-blue™キットを搭載したデジタル複合機 e-STUDIO205  
e-blue™ erasable toner kit in e-STUDIO series multifunctional peripherals

消せるトナー e-blue™は、一度印刷した文字や絵を専用の消去装置で消して、OA用紙を5~10回ほど再利用できる環境調和型製品である。

2006年夏には対応機種が増え、東芝テック(株)製の低速タイプのデジタル複合機(MFP)がラインアップされて、ユーザーの選択肢が増えた。新たに加わったのはe-STUDIO165/205の2機種で、ユーザーが複合機購入時にe-blue™用対応オプションを追加することで、e-blue™対応機として利用することができる。

また、使用済みの回収トナーを完全にサイクルする紙粉除去機構と回収トナー専用ミキサの採用、RoHS指令(電気・電子機器中の特定有害物質の使用制限に関する指令)対応の有害化学物質削減など、MFP自身も地球環境に配慮した様々なシステムを取り入れている。

### ● レーザ堆肥分析装置 GeoRight™



LIBS法を用いたレーザー堆肥分析装置 GeoRight™  
GeoRight™ compost analyzer using laser-induced breakdown spectroscopy (LIBS)

試料にレーザーを照射したときに発生する元素固有の波長の光を分析するレーザーブレイクダウン分光法(LIBS)を用いた堆肥(たいひ)分析装置 GeoRight™を開発し、初号機と2号機を納入した。

従来の堆肥の肥料成分元素分析では、炭素と窒素には炭素・窒素分析装置が、リンやカリウムなどには主に高周波誘導結合プラズマ発光分析装置などが用いられている。従来は複数種類の装置で行っていた分析が、この装置では単独で実施でき、また、従来分析法では不可欠な酸などの薬剤によるサンプル調整が不要で、分析過程で有害な廃棄物が発生しないという特長を持っている。

1999年の肥料取締法の改正などにより、堆肥の成分分析に対するニーズは広がりを見せており、この装置の導入拡大が期待される。